

講師 藤田紘一郎 先生

議題 「きれいな社会の落とし穴・・・アトピーからガンまで」

藤田先生は俗称「回虫博士」として国内・国外で寄生虫の研究での第一人者で、それ等の研究から、現代病と言われる難治なアトピーからガンまで原因の究明と治療法を提案され、今までの西洋医学による対処療法の問題点や現代生活の利便性追求や清潔指向の行き過ぎに警鐘を鳴らし、日常生活のあり方、生き方を自然との共存・共生に置くことを啓蒙されている。

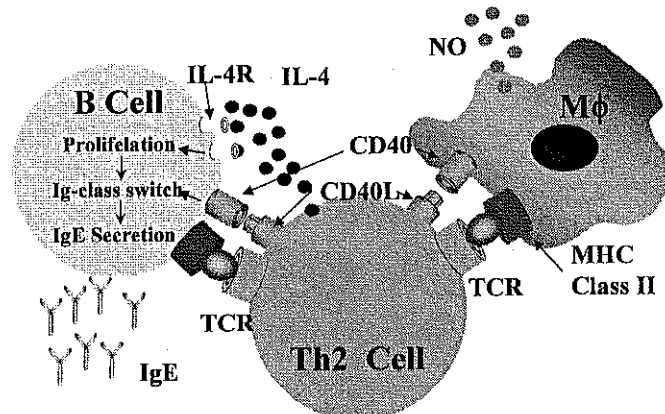
### 1 寄生虫研究のキッカケ

自分は東京医科歯科大学に入り、柔道部に入り、整形外科医として医局に入局した。教授よりたまたま感染症の研究でインドネシア・カリマンタンに調査団の一員として加わり、それをキッカケとして東京大学伝染病研究所に入り、感染症の原因となるウィルス、細菌、寄生虫などを研究する道に入った。

そこで驚いたことはカリマンタンの村を流れる汚い川（尿尿の生放流、洗濯や生活排水）にもかかわらず、飲料水として利用されたり、行水や子供の水浴びなどが行われており、それでも日本の子供に比べ、肌はツヤツヤ、ツルツル、目は光輝いており、大人でもコレステロールや中性脂肪は少なく、アトピーや喘息といった病気もないことであった。

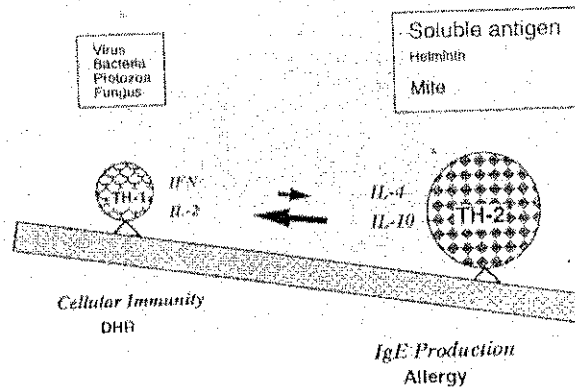
また、自身は三重県多気郡明星村の田舎出身であるが、自分達の子供の頃には回虫やさなだ虫を誰でも宿し、青鼻こそ垂れていたが、アトピーや喘息はなかった。そこで、寄生虫や細菌が何らかのそれ等を抑える物質を有しているのではないかと考え(図-1)、寄生虫からそれ等に対する抗原を抽出して動物実験をしてみた。ところが、確かにアレルギーを抑えることに成功したが、逆にTH1という免疫細胞活性が低下し、ガンを誘発することがわかった。すなわち、西洋医学的に薬で患部や悪い部分をたたくと、返って生体のバランスをくずすことが原因だった(図-2)。肉体も精神も経営も全てバランスを失うと病気となるも同じことである。

### T cell dependent IgE Production



(図-1)

ALTERATION IN MUTUAL REGULATION BETWEEN TH-1 AND TH-2 IN HUMAN



(図-2)

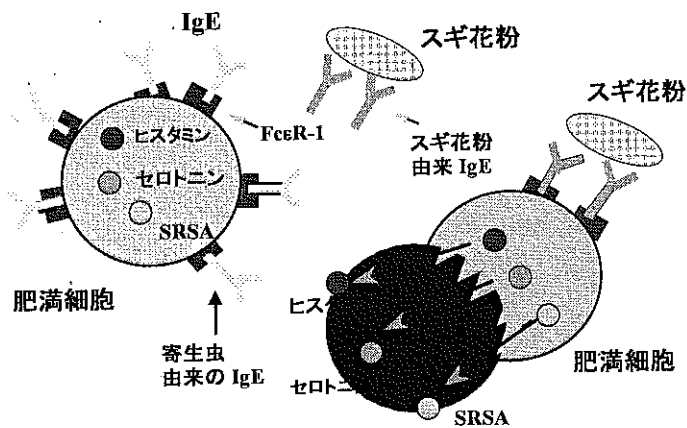
2 寄生虫の役割

寄生虫は寄生する宿主によってそれぞれ異なるが、宿主と共存共生して双方がメリットとなるように働く。人間に住む寄生虫や細菌、ウイルスなどは人間を守るが、動物の寄生虫が人間の体に入ると問題を引き起こす。

- 人間 → 回虫、サナダ虫
- ハクビシン → サーズ
- みどり猿 → エボラ熱
- カモ → 鳥インフルエンザ

スギ花粉などに対して寄生虫の果たす役割は肥満細胞に入り込みヒスタミンやセロトニン、SRSA などに变化したものが細胞間に伝わるのを寄生虫の出すIgE が止めてくれる(図-3)

寄生虫感染がアレルギー反応を抑える機序

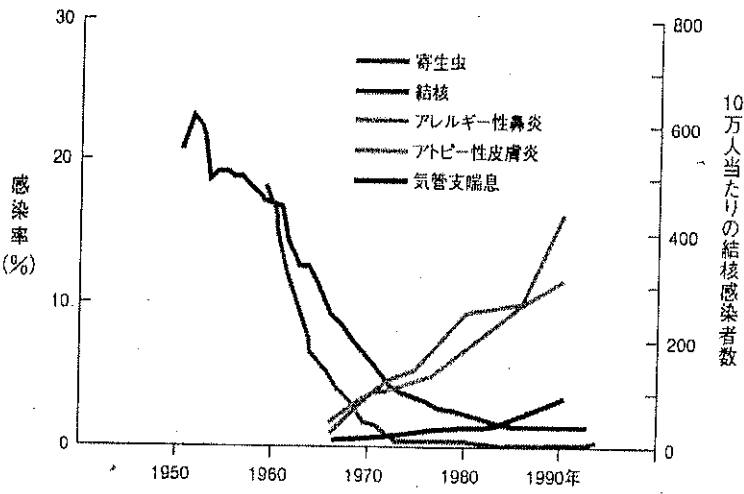


(図-3)

今日アトピーや喘息などをはじめとするアレルギー反応の原因が自動車や排気ガスによる公害、花粉、各種添加物、食事の洋風化などとされてきたが、根本原因はそれに対する免疫力の低下や体内の雑菌、ウイルスなどの効用を排除した結果発症するものと考えるべきで、上記の原因など形は変わっても人間が生きてきた時代には常にあったことである。

アトピーや喘息は抗ヒスタミン剤では治らず、長期に投与されると、免疫力が低下して慢性病と化すことになる。また、動物実験で動物がエサを食べようとする時にその都度電気ショックを与えると、それが大きなストレスとなり、免疫力が低下して必ず、ガンやアトピーが発症する。

今日、ガンやアトピーなど1963年以後、どんどん増え続けているが(図-5)、西洋医学では限界があり、むしろ東洋医学的な方法で免疫力を高めて治すことが求められている。



(図-5)

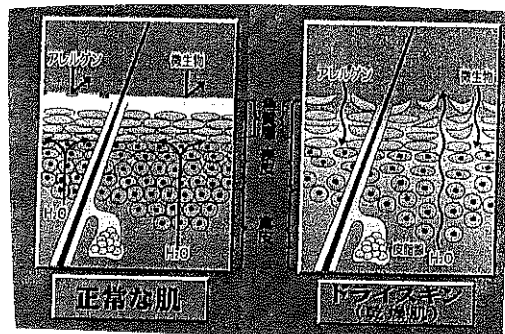
ガンに対する丸山ワクチンは、TH-1を大きくすると共にTH-2をも大きくし、アトピーにも効果的である。結核の予防でBCGが用いられるが、花粉症にも効果がある。自身が喘息で食欲がない時でも、自分が飼っているさなだ虫(キヨミちゃん)が空腹に耐えかねてTH-2を刺激してTH-1を大きくしようと努力をするので食欲が戻る。

### 3 過度な清潔は体の抵抗力を低下させる

**抗菌グッズ:** 今日、抗菌グッズ(下着から持ち物まで)でないものはない時代であるが、そのために皮膚を覆っている常在菌(ブドウ球菌・ニキビ菌・真菌類など10種類で皮膚の脂肪を分解して脂肪酸をつくり、皮膚を酸性にして病原菌に対処する菌)が弱くなり、外部からの刺激や悪い病原菌への抵抗力が大変弱くなっている。

**抗生物質:** 消毒、殺菌剤の多様。薬づけの虫の食わない野菜を日本人だけが食べている。防腐剤はバイ菌をいつまでも殺し続けている。日本人は死んでもなかなか腐らない。寄生虫の排除はアレルギー病を引き起こし、細菌による攻撃で、O-157、結核、院内感染菌等の薬剤耐性菌が発生し、それ等微生物に対する免疫力の低下は日和見感染症を引き起こす。腸内細菌の善玉でビフィズス菌のみ大切にし、他の大腸菌(約200種類、O-157は150番目で全体の30%のパワーを持つ)を除去すると、かえって菌の共存を壊し、O-157などが発生する。

**洗いすぎ:** 皮膚の常在菌は又体の洗いすぎによっても、ドライスキンやアトピーも引き起こす(図-4)。1回の洗いで90%の雑菌や脂肪を失う。若い人で元の状況に戻るのに1日かかる。特にボディシャンプーは強力で、全部洗い流してしまうので年寄り気をつけるべきである。



(図-4)

トリコモナス膣炎：膣にはデーテルライン乳酸菌が膣のグリコーゲンを食べて乳酸菌を作り、膣を酸性にして雑菌の侵入を防いでいる。洗い過ぎたり、ビデの常用は良くない。30代女性に多い。

超清潔志向は心の病気、結果以下を引き起こす。

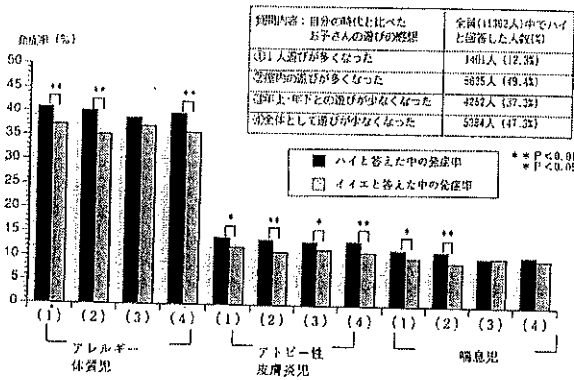
抵抗性の減弱により免疫力が低下、その結果感染症の逆襲を受け、感染症が感性や情熱の萎縮を来し、精神的にも超清潔症候群、プリック病(汚いかっこうにイライラする)、自己臭症を引き起こす

#### 4 現代病にあらないために

アレルギー、アトピー、気管支喘息、ガン等の現代病に対する効果的な予防法  
我々の細胞は1万年前と変わっていない。原点に帰ろう。

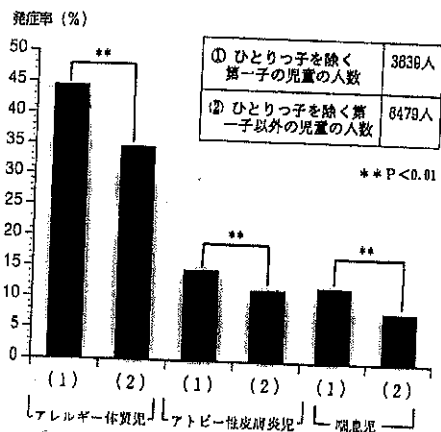
##### (1) 子供や孫達のために

今、日本では生まれる子供の約2人に1人がアトピーになっている。  
外で遊び、抵抗力をつけよう (図-5) (図-12, 13)  
子供をかわいがり過ぎぬよう、脱家畜化を心がけよう (図-6, 7)



外での遊びが少なくなり、一人遊び、屋内の遊びがアレルギーになる率を高めている

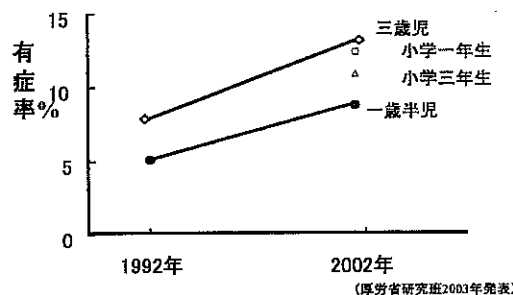
(図-5)



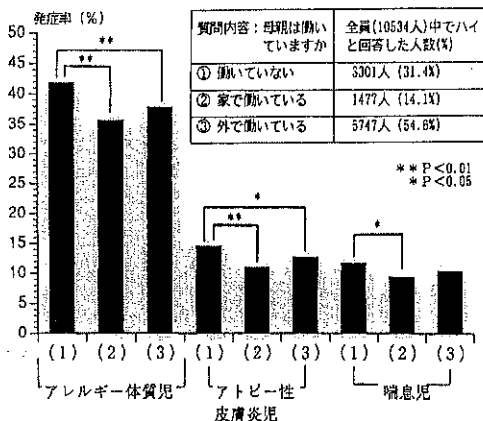
第1子のほうがその他の児童に比べてアレルギーになる率が高い

(図-13)

#### 幼児のアトピー 10年で2倍



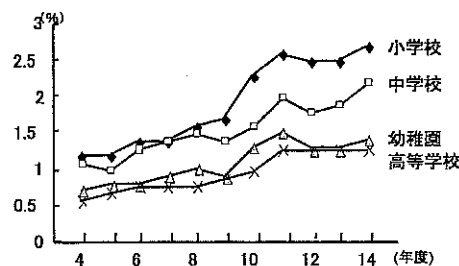
(図-6, 7)



母親が働いていない家族の子どもにアレルギーになる率が高い

(図-12)

#### 子どもの喘息発症率 10年で2倍

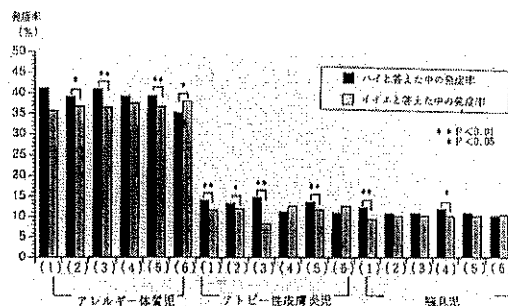


ハイキング等自然に触れさせ、コンピューターゲーム、テレビから離れよう  
 米国の小児科では土中のバイ菌からワクチンを作る研究が盛んに行われている。  
 バイ菌が子供を強くする。

アレルギーになりにくい子供は子沢山で狭い家に暮らす子供、親に定職がなく低所得層の子供、犬や猫を家の中で飼っている子供、農家で育った子供、手や顔を洗う回数が少ない子供、BCG接種を生後早期に受けた子供、早期に託児所に預けられた子供などである。

子供の食事に気を配ろう (図-8)

質問内容：復帰(20年)前と比べて家庭の食事が変化しましたか	全員(11392人)中でハイと回答した人数(%)
① 肉類が増えた	4212人 (37.0%)
② インスタント・半加工品が増えた	4533人 (39.8%)
③ 洋食が増えた	3045人 (26.7%)
④ チャンプルが少なくなった	1530人 (13.4%)
⑤ 子供の間食が増えた	4256人 (37.4%)
⑥ それほど変わらない	1665人 (14.6%)



「肉類が増えた」「インスタント・半加工品が増えた」「洋食が増えた」「間食が増えた」などがアレルギーになる率を高めている

### (2) きれいな水神話の誤り

水の分子は活性化の大きいほど良い水である。  
 雪解け水は活性大、但し4日で効果が消える。  
 犬は実験で水の良し悪しを嗅ぎ分ける。  
 良い水を鶏や牛に飲ませると良く育つ。  
 新潟の米がおいしいのは雪解け水の影響。  
 ルルドの泉の水をそのまま飲み、病気が治った人が多い。  
 ペットボトルの名水は一度沸かして殺菌するので効果がない。  
 なま水よりも人のおなかや空気中のバイ菌の方が多い。  
 水道水は塩素殺菌してあるので沸かすとトリパメタンが発生し、ガンを誘発する。  
 尿は出たては無菌、むしろ口腔の中はバイ菌だらけ。キスは怖い。  
 腸内細菌は種類や数が多い程、免疫力が高まる。

### (3) 食事、雑穀類、野菜類、果物などの食品を摂ろう。粗食のすすめ。

米国では肉を減らし、野菜類を多く摂る事が推奨され、ガンが減ってきた。  
 日本は逆をやっている。  
 ガン予防と健康維持のための食品の摂りかた (図-10、図-11)

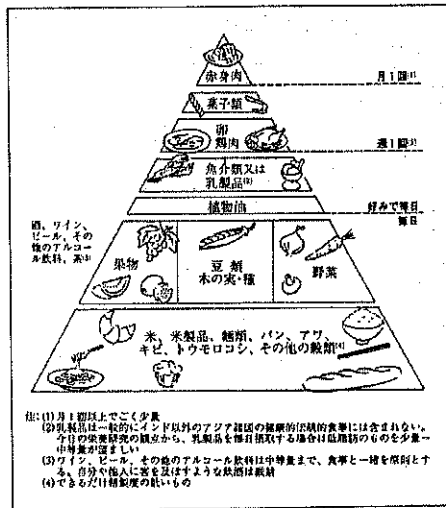


図10 アジアの伝統的な健康的な食事ピラミッド (Medical Tribune)

(図-10)

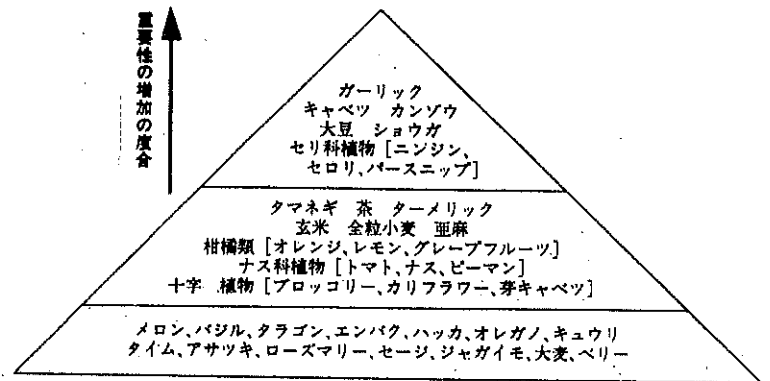
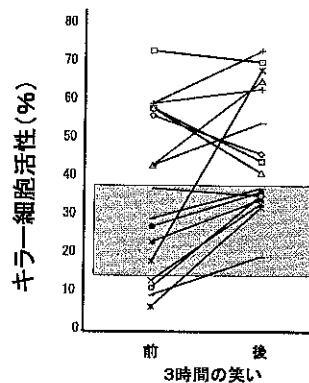


図11 ガン予防の可能性のある食品、および食品成分 (アメリカ国立ガン研究所発表)

(図-11)

#### (4) ストレスは免疫力を低下させる

笑いはNK細胞を活性化させる。ガンやアトピー、リウマチなどに効果あり。一日一回、大声で笑おう。(図-12)



3時間の笑い体験前後のキラー細胞活性(NK活性)の変化

は正常値の範囲

(図-12)

ストレスをストレスと思わず、ポジティブシンキングで生きよう。イメージトレーニングでプラスイメージを画こう。

感性を大切にしよう。人間らしい生き方。動植物を愛し、美しい音楽、良い香りに積極的に関心を持つ。プロ並みの運動量は体を壊す。楽しく運動しよう。

#### 5 まとめ

何でも過ぎたるものはバランスをくずし、問題を引き起こす。

きれいとは差別の考えを強化する。

人間関係がギスギスする。劣るものを排除しようとすることにより殺人や暴行、階層同志のイガミ合いが起こる。

バイ菌や寄生虫との共生が本来の日本文化

山川草木国土万有皆仏性、成仏観が日本人の自然観、近代医学はこの自然観を棄て人間中心の考えに傾倒してしまったが為に様々な面でしっぺ返しを食らっている。

寄生虫も細菌も仏、と見立てよう。